

## 令和7年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和8年1月23日（木）15：45～17：00

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

(構成員) 市長	横田 隆一
教育長	佐藤 勇
教育長職務代理者	荒井 由紀恵
教育委員会委員	杉本 功
教育委員会委員	柴口 史子
教育委員会委員	曙 嘉輝
(教育部) 教育部次長	大西 正起
学校指導室長	赤井 輝人
企画総務課長	巽 豊
学校教育課長	下口 剛彦
学校指導課長	立花 秀俊
(事務局) 企画部長	森 周一
企画部次長	米澤 宏樹
企画課長	櫻井 雅彦
企画課企画調整係長	西河 琢
企画課企画調整係主任	佐々木 研人

▼内 容

○森企画部長

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、企画部長の森でございます。

ただいまから、令和7年度第2回千歳市総合教育会議を開催いたします。

それでは、ここで本会議の議長であります横田市長から御挨拶をお願いいたします。

○横田市長

皆様、こんにちは。そして、すでにお会いしている方もいらっしゃると思いますが、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

本日は、今年度第2回目の総合教育会議ということで、皆様には、お忙しい中お集まりいただきまして、心からお礼を申し上げたいと思います。また、日頃から千歳市における教育の充実・発展、こどもたちの健全育成のために、御支援、御協力いただいておりますこと、重ねてお礼申し上げたいと思います。

本年はすでに御案内のとおり、空港開港100年という大きな節目の年を迎えました。この機会に先人たちの情熱と努力に敬意と感謝をしつつ、市民の皆さんと一緒に特別な年をお祝いし、まちを盛り上げていきたいと思っております。また、次の時代を担うこどもたちが

誇れるまちとなるよう、これからも皆様と一緒に、様々な取組を進めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

昨年10月に開催した会議においては、緊急の開催ということでしたが、佐藤教育長が就任して初めての会議ということでもありました。この中で皆様から様々な意見を頂戴し、このことについてはしっかりと対応したいと考えております。

本日の議題は、「学力向上の実態と取組」と「勇舞中学校校舎増築事業」についてとなります。増築については、すでに御案内しておりますが、改めてその内容について議題とさせていただきます。皆様には、様々な御意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○森企画部長

ありがとうございました。

ここからは、私の方で進行を務めさせていただきます。

それでは、1点目の「学力向上の実態と取組」について、立花学校指導課長から説明をお願いいたします。

○立花学校指導課長

(資料に基づき「学力向上の実態と取組」について説明。)

○森企画部長

それでは、この件につきまして、意見交換をお願いいたします。

○杉本委員

学力調査の結果を見ると、理科では改善がみられるものの、国語、算数・数学科は、非常に厳しい状況であるということがわかりました。こどもたちに学力を身に付けさせるという意味で、授業は大変重要だと思いますが、説明の中で、講義型授業から探究型・対話型授業への転換が重要だとありました。実際に各学校でどれくらい進んでいるのか、あるいは今後どのような展開になるのか、もう少し詳しく説明いただきたいですか。

○立花学校指導課長

学校現場の状況ですが、探究型・対話型授業を推進するため、学校指導課では、学校訪問を通じて指導助言を行っております。また、教職員研修会の実施等を通じて、ICTを活用した協働的な学びや、探究型の授業づくりについて教員の意識を高めているところです。こういった取組により、こどもたちが主体的・対話的に学ぶ場面は確実に増えてきていると実感しております。

ただし、教科によって、また、学年によって進捗に差があることも事実ですので、今回改訂した11の提言に基づき、学力向上のモデル校の好事例も波及させながら、全ての学校、教員で探究型・対話型授業が実践できるよう、授業改善を推進していきたいと考えております。

#### ○杉本委員

関連してもう1点、授業づくりということで今お話をいただきましたが、新しいかたちの学びということで、個別最適な学びと協働的な学びが柱となっていることは理解できました。その中で、算数・数学科、とりわけ中学校数学の無解答率が高かったり、解答時間が足りなかったりという結果も出ていますが、ここを改善していくのに個別最適な学びがどう結びついていくのか見えなかったもので、その結びつきや効果についてもう少し説明いただけますか。

#### ○立花学校指導課長

先ほど資料にあった数学の問題は、最終問題となっており、最終問題の無回答率が高いということは、そこにたどり着くまでの問題でどうしても時間がかかっているということであり、時間がかかるということは、知識・技能という基礎的な部分に時間をかけてしまっているのだろうと分析しております。

今求められている個別最適な学びとして、一人ひとりにしっかりと知識・技能をつけるためには、今年度本格導入したデジタルAIドリルや、個々のつまずきに応じた学び直しを徹底させることで、基礎的な力が身についていくと考えております。

また、こういった個々の取組だけでなく、単元全体でどこに重点を置いて指導を行うか、例えば、3時間目までは探求型で行うが、4時間目は知識・技能に重点を置き、習得型・反復型に取り組むというような計画的な取組も重要になってきていると考えておりますので、各校でしっかりと授業改善に繋がるような計画を立てられるよう指導していきたいと考えております。

#### ○柴口委員

今、数学科のことが話題に上がり、中学校の回答率の説明をいただいたところですが、小学校算数においては、理科のような改善が見られず、算数は積上げができていなければ次の学年に非常に大きく影響を及ぼすため、小学校の正答率が低下している点は非常に心配なところです。実際、先ほど説明いただいた単位分数の概念理解のようなところで、ICTの活用以外にも授業改善に関わって、まだ課題があるのではないのでしょうか。指導力向上のための具体的な研修体制や、良い事例の波及の仕方についての考えを伺えればと思います。

#### ○立花学校指導課長

御指摘の通り、本市ではICTを教育に活用するというところで取り組んでおりますが、実際に使用するのは教員であり、どのように工夫して子どもたちに身につけさせるかは、指導力の向上が欠かせないものと考えております。

本市では、教職員研修会を全市として取り組んでいるほか、学校課題研究発表で実践を共有したり、教育振興会で各専門分野における指導実践を研究・協議したりすることで、教員の指導力の向上を図っております。

ただ、それだけでは十分改善していないというのが現状ではあるので、校内研修を学校訪問に併せて行い、学校指導室から指導・助言をすることで、教員の指導力の向上を図り

たいと考えております。

○曙委員

もちろん学校での授業は大切ですが、アンケートの結果を見ると、家庭学習の時間が短いし、下がっているため、家庭学習をどう増やしていくかが課題になると思います。家庭との連携等はどのように考えているのでしょうか。

○立花学校指導課長

本市の継続的な課題として、家庭での学習習慣がなかなか身につかないというのは、本当に難しい取組のひとつとなっております。家庭での取組のため、各家庭にお願いするところではあるものの、そのとりかかりは学校にあると考えております。

先ほど例で示した、緑小学校で行っている、校内掲示を保護者が来るタイミングに合わせて掲示して、保護者への意識喚起というの大きな手立てとなりますし、高台小学校で行っている、テストで実施した内容をデジタルAIドリルでもう一度家庭で解き直させるというような、家庭と課題が連携して取り組めるような内容になっているものもあります。こういった好事例をしっかりと市内で波及させることや、中学校区で統一した家庭学習の目標を設定するなどして、小中学校を連携させた取組も充実させていきたいと考えております。

○曙委員

これに付随して、不登校や特別教室などの学校に通えないような方の学力向上施策についてはどうでしょうか。

○立花学校指導課長

市内中学校においては、今年度から校内教育支援センターが6校に設置され、専属の支援員を配置し、なかなか教室には入れないけれど学ぶ意欲はあるといった生徒に対し、支援員が手立てを講じることができるようになっております。

小学校においては、まだ支援員が専属で配置されていないため、担任外などの対応できる者で同様の体制を構築しておりますが、中学校と比べて、なかなか手が回りきっていないという実態もあります。一方で、オンラインでAIドリル等を活用できる体制は整っており、授業をリモートで繋ぐだけではなく、個々の実態に合わせた課題を、AIドリル等を使って提示することで、学びが確保できない子たちへの支援を行っております。

○荒井教育長職務代理者

授業改善を進める上で、教職員の多忙が懸念されますが、新しい授業スタイルへの転換やICT活用は、現場の先生にとって新たな負担ではなく、指導の効率化ややりがいに繋がるよう、教育委員会としてはどのような支援を進めていく予定でしょうか。

○立花学校指導課長

働き方改革については、時間外在校等時間、時間外勤務を減らすことがひとつの目的で

はありますが、行き着く先のゴールは、ゆとりが生まれた教員が、こどもたちにとって豊かな学び、より充実した学びを展開できるようにすることが、本来の働き方改革の目的となります。

おっしゃるとおり、ICT等をどうしても負荷と感じてしまう教員もおりますが、やはりその効果には大きなものがあり、昨年度からの時間外在校等時間は減少している傾向が全市的に見てとれます。もちろん、負担軽減は図りつつ、こういった取組が教員の働き方改革に繋がるということを示したいと考えておりますし、より効果的な活用方法については、市教委もしっかりと教員に発信したいと考えております。

#### ○荒井教育長職務代理者

学力向上の取組は、なかなか成果が出にくいものと思いますが、一方で、保護者や市民などは目に見える改善を期待していると思います。今後、千歳市のこどもたちの学力や学習習慣がどのように変わっていくことを目標としているのか、具体的な指標はあるのでしょうか。

#### ○立花学校指導課長

市教委としても、なんとかこどもたちの良いところを家庭の皆様にお伝えしたいと考えておりますし、もちろん数値だけにこだわるものではないと考えております。しかし、一方で、根拠がなければ信頼を得るものとならないので、まずは、全国学力・学習状況調査又はNRT標準学力検査において全国平均以上というのをひとつの指標としております。また、こどもたちが安心して学校に通える環境づくりとしては、ハイパーQU検査において、学級満足群にいるこどもたちが70%以上どの学校にもいることをもうひとつの指標としております。最後に、家庭との連携ということで、家庭学習の部分については、小学校6年生、中学校3年生が1時間以上、家庭で学習に取り組んでいるということを100%とするといったことで、これからも尽力していきたいと考えております。

#### ○横田市長

先ほど杉本委員もおっしゃったとおり、特に中学の数学の結果に少し驚きました。よく分かるデータの整理の仕方だと思いますが、それゆえに驚いたというか、残念な部分もあります。

学科に関わらないと思いますが、新聞を週に1回読んでいるかなど、全国と大きな違いがある部分もあるし、やはり曙委員からもあったとおり、ずっと以前からの課題である家庭学習についても、先生方が努力されているのは重々分かっているものの、どうしたものでしょうか。先ほどあった、家庭学習の中学校区単位での統一的な取組というのは、どのようなものでしょうか。

#### ○立花学校指導課長

以前、千歳中学校区では、小学校1年生から中学校3年生までで、それぞれ時間でどれくらい取り組みましょうということを決め、千歳中学校区内の小学校が全て足並みを揃え、時間を目安とし、内容もこのような感じで取り組むのがいいだろうと共有しております。

した。そのことを保護者や子どもたちに伝え、子どもたちの学び方が、そのまま中学校に進んでも繋がるという取組をしていました。こういったことをイメージしながら、各中学校区でも共通の目標を設定して取り組むということを考えております。

○横田市長

実際にそれを各家庭でどうやって実践いただけるかという部分だと思いますが、ずっと難しい課題なのだと思います。

先ほど、不登校の話もありましたが、現在、中学校には校内教育支援センターを設置していて、不登校の人数は小学校よりも中学校の方が多いと思いますが、一定数いる小学校の中で、センター的な展開は今後どのように考えているのでしょうか。

○大西教育部次長

予算の問題もありますが、理想としては小学校の中にも校内教育支援センターを設けて、不登校対策できればいいなどは考えております。ただ、全校でやるとなると、相当な経費にもなりますし、まずは中学校で導入させていただいているので、その成果を一定期間見ながら、小学校で設置しようとしたときに、どのような形態が良いのかよく検討していく必要があるかと思っております。理想として、設置すればやはり一定程度の成果が見えてくるだろうと思っております。

○横田市長

中学校での成果・効果をしっかり確認する必要があると思いますし、小学校に設置するとしてもスペースの問題や人員の手配ということもあるでしょう。ここが不登校の全ての解決策ではないかもしれませんが、今後の課題だと思っております。

○佐藤教育長

声としては、非常に有効でありがたいという話もいただいておりますので、よく検討しながら、小学校にも広げるのであれば、そこはよく考えていきたいと思っております。

○横田市長

センターとして設置するのであれば、人を張りつけることになるのでしょうか。

○佐藤教育長

おっしゃるとおりです。

○杉本委員

センターの設置は、他の市町村よりもいち早く千歳市で行ってきたので、佐藤教育長がおっしゃったとおり、現場の声を聞くと、大変ありがたい、効果があるということも私聞いています。ですので、できましたら小学校にもセンターを設置し、拡充していければいいなと思っております。

今、学力のことが非常に課題として見えていますが、千歳市では、ハイパーQU 検査を予

算化するなど、学力を高めるために、その基盤となる学級づくりだとか不登校をなくしていくという取組が他市町村よりも進んでいると思っていますので、予算的に難しい部分もありますが、今後もここに力を入れていくということが、間接的というか、一歩別な視点から見ていくという意味で大事なかなと思います。

○横田市長

追加でひとつ伺ってもいいでしょうか。個別最適な学びと協働的な学びという話がありましたが、具体的には、個々に合った指導なりをしながら、全体でも全体が必要なことをやっていくというイメージでしょうか。

○立花学校指導課長

個別最適な学びとしては、やはり子どもたち一人ひとりにそれぞれ学び方があるということで、これまでは、一斉で、教師の敷いたルールに基づいて子どもたちが学びを展開するという授業、いわゆる講義型と言われるものでした。ですが、これからはそれぞれ、例えばこの子は ICT を使います、この子は本を使います、この子はまた別なものを使いますというように、ひとつの課題を解決するときに様々な学び方を進めていくというのが個別最適な学びということになり、自分の学びを展開していくこととなります。

ただし、それだけでは子どもたちの学びは深まらないので、協働して問題解決に至るという場面も当然必要となります。ですので、子どもたちがそれぞれ進めていった学びを共有する場を設ける必要があります。昔であれば、話し合いや発表をして交流する中で、この考え方がいいねということ共有しながら、どれが一番良い解決方法だろうということまで答えを導いておりましたが、現在は ICT を活用することで、手を挙げたり、紙に書いたりして発表するだけでなく、コンピュータ上でそれぞれが個別最適な学びを展開している様子を一覧で見ることができ、自分の学びの中で躓くことがあれば、ほかの子の取り組んでいる内容を見ることもできます。昔であれば、席のところに行って教えてと聞いていたことをコンピュータ上で見ることができるので、この子の考えをヒントとして自身の躓きを解消していくというようなことをしていく中で、最終的には交流して、全体で確認し、まとめていき、解決にいたるといような形となっております。

○横田市長

それぞれ子どもたちの理解度は違うと思いますが、全て合わせるのではなくて、それぞれの理解度に応じて必要な ICT を使ったり、紙を使ったりということをしてしながら、最終的には全体で進捗度を見ていき、それを本人がフィードバックして、自身に役立てるといようなことでしょうか。

○立花学校指導課長

おっしゃるとおりです。

○横田市長

佐藤教育長、何かありますか。

○佐藤教育長

学力向上については、やはり一気に解決するというのは難しいものと思っています。千歳市としては、学力向上委員会を立ち上げ、モデル校を設定し、実践を重ねながら学力向上に向けて取り組んでいるところです。このモデル校の取組は、その学校における学力向上はもちろんだと思いますが、他の学校にも、良い事例となって実際に効果が出ていますので、今後も学力向上委員会を中心とした取組を進めていきたいと思っています。

先ほど話に出ましたが、学力向上というのは、学校での授業改善と教員の指導力向上が必要だと思っていますが、実態として、千歳市のこどもたちのスクリーンタイムが多いということもありますので、保護者も巻き込みながら、組織的に対応していかなければならないと思っていますので、教育委員会も協力しながら進めていきたいと考えています。

○森企画部長

本議題については以上でよろしいでしょうか。ほかに御意見なければ、次に、2点目の「勇舞中学校校舎増築事業」について、異企画総務課長から説明をお願いいたします。

○異企画総務課長

(資料に基づき「勇舞中学校校舎増築事業」について説明。)

○森企画部長

ただ今、企画総務課長から説明がありましたが、この件につきまして、意見交換をお願いいたします。

○荒井教育長職務代理者

勇舞中学校は、比較的新しい学校だと思いますが、増築が必要になるということは、生徒数が予想以上に伸びた結果と言えて、まちの発展にとっては良いことだと思います。この傾向は、市内の中学校も同じで、生徒数は伸びているのでしょうか。

○異企画総務課長

まず、勇舞中学校の増加率ですが、平成24年の開校当時は13学級でスタートしました。また、当時のレイアウト図を見ると、1フロア7クラスで3階建てですので、21教室を上限としてスタートしたものと推察できます。今年度は、この21学級という上限で運営されております。

この平成24年度の市内中学校全体の生徒数は、2,759名でありました。令和7年度は、2,584名で、175名、約6%減少しており、全体として少子化の流れが当市にも表れているという状況となっております。

○森企画部長

今の質問の意図は、市全体ということではなく、増加がこのエリアだけなのかという意図ではないでしょうか。

○荒井教育長職務代理者  
おっしゃるとおりです。

○森企画部長  
他の中学校区の増減、傾向はわかりますか。

○巽企画総務課長  
減少傾向ですと、やはり向陽台中学校区は減少傾向となっております。千歳中学校区は、平成24年度から比べると増加傾向で、最近特に増加しております。北斗中学校区は、あまり変わっておりません。富丘中学校区は増加傾向で、青葉中学校は横ばいとなっております。それぞれの増減を加味すると、全体で6%程度の減少となっております。

○森企画部長  
それぞれの中学校区で開発された時期が違うので、それぞれ増加・減少傾向のところがあります。

○荒井教育長職務代理者  
勇舞中学校の生徒数は、資料の表を見ると、令和13年度から減少しています。仮に、この後14年度、15年度と生徒数が減少し続けた場合、教室に余剰が生じます。そうした場合、プレハブ校舎を撤去するなどの対策は考えているのでしょうか。

○巽企画総務課長  
プレハブ校舎の今後の在り方については、学校運営に関わるため、校長先生や教頭先生の見解を伺わなければならないですが、今回の増築分ではなく既存校舎のみで学校運営が可能ということになれば、今回増築分を余剰分と見なして検討が始まるものと考えております。

一方で、現在、支援学級や習熟度別個別授業など、きめ細やかな授業が増えているため、教室自体の需要は増えております。それから、今回のプレハブは軽量鉄骨造を採用しておりますが、耐用年数は20年から30年のものですので、これらを考え合わせながら、プレハブ校舎の在り方を考えていきたいと思っております。

○柴口委員  
特別支援学級の開設について伺いたいのですが、現在、特別支援学級への通学を希望している勇舞中学校区の生徒は、富丘中学校などに通っているということですが、令和8年度に富丘中学校に通っている中学1年生、2年生のこどもは、令和9年4月から勇舞中学校の新設されたところへ転校する必要があるのか、それとも、富丘中学校に通い続けられるのかをお聞きしたいです。

○下口学校教育課長

通学区である勇舞中学校への通学が基本となりますが、特別支援学級に通うこどもの、富丘中学校における生徒との人間関係や、環境の変化などの不安もあると思っておりますので、保護者と教育相談を行いながら、通学先を選択できるようにしたいと考えております。

○柴口委員

重ねてお伺いしたいのですが、やはりそういうこどもたちは変化に弱いので、友達との関係や環境が変わらないことを選択できるというのはとても良いなと思う一方で、教員の配置というのは、生徒の人数や学級数で決まってくるものなので、教員の配置を含め、どちらを選択してもいいということなのか伺いたいです。

○下口学校教育課長

教員の配置については、例年9月末くらいに石狩教育局に生徒数を報告し、必要な教員数の要望活動が始まります。このため、令和8年9月頃までには、教育相談を行いながら生徒数を把握し、石狩教育局と協議をしまいたします。

○柴口委員

先ほど図面を見せていただいて説明していただいた中で、特別支援学級は、令和12年度に6教室で運営することになっていますが、令和9年度の想定図面では5教室が特別支援学級として配置されています。図面上、ほかになかなか教室に転用できるスペースが見つけれないので、残り1教室はどのように捻出されるのかなど。それと、体を動かすプレイルームやクールダウンし感情を落ち着かせる場所が付き物だと思いますが、そのようなあたりをどう想定されているのかお聞きしたいです。

○下口学校教育課長

まず、6教室の確保については、特別支援学級の学級数の考え方が、例えば肢体不自由など障害の種別ごとの人数に応じて学級数が決まることになっております。障害種別の学級によっては生徒数が少ない学級が想定されますので、そうした学級については、ひとつの教室をパーティションで区切って、もう1学級分を捻出したいと考えております。

次に、クールダウンのスペースですとか、体を動かすスペースについては、クールダウンは、既存の相談室や、運用によっては教室内を更にパーティションで区切り、スペースを作って目隠しとするなどの運用が考えられます。体を動かす場所については、体育館や柔道場が基本と考えられますが、勇舞中学校は普通学級を含め学級数が多いため、体育館や柔道場が使えない場合も考えられます。その場合は、体育館前の廊下などの空きスペースの有効活用などを考えながら、運用の中で検討していこうと考えております。

○曙委員

増築はプレハブということで、工期も短く、安価でいいのかなと思いますが、業者の選定はどのように行うのでしょうか。また、その他の整備関係と一緒に発注になるのか、分

けて発注になるのか、どちらでしょうか。

○異企画総務課長

まず、プレハブ建築物の事業者の選定については、12月の補正予算を経て、事業者を募っているところであります。詳しい部分までは申し上げられませんが、入札のように金額の安い事業者と契約するというよりは、リース事業者に商品をプレゼンテーションしてもらい、選定委員会で選ぶ方法（プロポーザル方式）を考えております。要素としては、これまでのほかの事業の実績を見たり、提案内容を見たりしながら総合的に考え、決定するものとなっております。

それ以外の、駐車場整備や既存校舎の改修は、令和8年度当初予算で、3月の議会で議決しましたら、新年度に入札を行い、事業者を決定してまいります。

○曙委員

市内の業者になりそうでしょうか。

○異企画総務課長

現在、プロポーザルで募集しているのは、プレハブ商品を扱っているリース事業者が中心となり、市内事業者で取り扱っているところは少ないです。駐車場の整備や内部造作については、入札はこれからですが、市内登録業者が原則であると考えております。

○杉本委員

勇舞中学校の場合は、生徒数の高止まりということで教室数が足りなくなったということだと思います。他の学校、例えば末広小学校や千歳第二小学校は、宅地開発で生徒数が増えているのではないかと思います。教室が不足している実態はないのでしょうか。

もうひとつ、増えている学校がある一方で、少子化の中で減っている学校もあると思います。そういったときに、学校の適正な配置は、市全体で見るとどうなるのかということも非常に関心がありますので、方向性が見えていればお聞きしたいと思います。

○異企画総務課長

まず1点目の、末広小学校、それから幸福エリアの千歳第二小学校、そこから上がっていく富丘中学校の部分は、今後増加していく見込みです。ただ、勇舞中学校のように増築が必要かというところでは、現時点での推計ではそこまでの必要はないという状況となっております。

2点目の、市全体として増加要因、減少要因がある中での学校の適正配置、適正規模の考えですが、規模や配置の見直しの実施にあたっては、児童生徒の通学区域の変更に及びますので、十分な時間をかけながら、関係する多くの方々の理解を求めながら進める必要があると考えております。また、築60年を超える学校、具体的には千歳中学校、千歳小学校、北進小中学校がありますが、この建替え時期が到来しております。ですので、この建替えに関するこれからの方針と、小中連携、そして平成28年から法定化された9年制の義務教育学校、これらの可能性など様々な観点での整理を行った上で、適正配置・適正

規模の検討を今後進めていきたいと考えております。

○荒井教育長職務代理者

特別支援学級のことで、学校教育課長にお聞きしたいです。令和9年度から設置する予定だと思うのですが、令和8年4月から入学される中学生は、富丘中学校に1年間だけ入れることになり、その後は変更もできるという選択があるということで、その場合、中学校だと制服やジャージの購入が必要になります。転校したとしても、富丘中学校で着ていた制服を着用可能とは思いますが、そういった負担を考えると、最初から1年後に変更する予定であれば、最初から1年間特別支援ではなく普通学級で1年間、勇舞中学校で過ごし、特別支援が設置されたらそちらに移るというお考えになる保護者も少なくないと思いますが、そういったところはどのように保護者に説明するのでしょうか。

○下口学校教育課長

まず、制服やジャージなどについては、特別支援学級は、過去には全校に配置するという方針ではなく、拠点校方式としていた時代もありました。その後、全校方式となり、各中学校に拡大していったときには、保護者負担がないようにということで、制服やジャージが使えるよう配慮しておりました。このことは、勇舞中学校の校長先生とも協議して、対象の保護者も心配されると思いますので、令和8年4月の早いうちに説明会を行いたいと考えております。

次に、普通学級に最初から通えるかということですが、勇舞中学校区で次年度に中学校に進学する児童、保護者には、関心事だと思っておりましたので、勇舞中学校へ特別支援学級を開設することは早期に伝えておりました。現在、中学校への就学相談を行っておりますが、一部の特別支援学級に在籍している児童については、勇舞中学校の普通学級への就学を希望しており、現在、小学校で努力していると伺っております。

○佐藤教育長

勇舞中学校の特別支援学級の設置というのは、保護者からの期待も本当に大きいものと思っています。そういった中で、校区内の児童生徒が混乱しないように、また、教員の体制や駐車場の整備なども含めて、円滑に移行できるよう教育委員会としては進めていきたいと考えています。

○横田市長

皆様にはいろいろと実務的な部分で貴重な御意見をいただきました。なかなか私も理解できていない部分もありました。やはり、こどもたちのことを一番に考えて、こういう移行期にどのような対応ができるか、よく考えていきたいと思っています。かねてからの課題であった勇舞中学校の増築と特別支援学級の設置について、しっかりと市としても進めていきたいと思っています。

○森企画部長

こちらから用意しました議題については以上となりますが、特に御発言なければ終了と

いたします。

その他全般から御発言ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

なければ、「4 諸連絡」といたしまして、今年度の会議については、これで終了となりますが、緊急に開催する必要があると考えられる案件が発生した場合は、随時開催いたしますので、御協力よろしくお願いいたします。事務局からは以上であります。

それでは以上をもちまして、令和7年度第2回千歳市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。